

令和7年度（2025年度）	学校評価表	学校番号	28	学校名	上田千曲高等学校 全日制課程
---------------	-------	------	----	-----	----------------

学校重点目標	①オンリーワンの存在をめざし、生徒満足度が高く活力のある学校をつくる。
	②総合的な専門高校として、連携や魅力的な学びを体系的に行い、進路実現につなげる。
	③ICT機器等を利用して、授業力、教師力、学校力を高め本校教育について広く発信する。
	④地域の教育力・人材を活用して教育の質を高めるとともに地域と連携し活性化に貢献する。
	⑤生徒の人権を尊重し保護者と連携して、いじめや体罰の無い安全・安心な学校をつくる。

評価対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学習指導	専門教育の充実	生徒の実態に即し、創意工夫のある授業を展開することができたか。	各専門科の特性を活かしながら、生徒の興味・関心を導き出し、主体的に取り組める授業を行うことができた。	A	各専門科での創意工夫を意見交換し、共有できる場を引き続き研究したい。
	資格取得の充実	生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒一人ひとりが積極的に取り組むことができるように指導することができたか。	各種資格取得・検定などを年度当初に明示し、資格取得に積極的にチャレンジできるように努力した。成果もあがっている。	A	各種資格の取得意義を広く伝えらるとともに、生徒が主体的に取り組めるようさらによびかけたい。
		授業の他に補習等を充実させ、生徒にとって満足いく成果が得られたか。	朝や放課後の補習等を実施し、生徒の資格取得を最大限のサポートをすることができた。	A	授業や補習等で使用する機材の老朽化や材料費、人員の負担に再考の余地がある。
	学習意欲の向上	生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業など、多角的に理解が深まるように工夫し、実践することができたか。	校外実習や外部講師の活用、またICTの活用機会を増やすことにより、生徒の理解状況や興味関心をふまえて授業を実践することができた。	A	物価の高騰により、校外実習費用、外部講師の確保など、制限される場面もあった。工夫を考えたい。
		生徒にとって分かりやすく、主体的に取り組めるような授業を実践することができたか。また、理解できない生徒に対して個別の支援がしっかりできたか。	ICTが導入され、生徒個々に機器を持たせることにより、新しい授業スタイルを展開できるようになった。ICT利用促進委員会との連携がさらに必要である。	B	個別の支援にはICT機器の充実が最優先事項であるが、ICT利用促進委員会と連携を密にし、向上策を講じる必要がある。授業担当者の研修もほしい。
進路指導	進路実現	生徒の適性や学力を的確に把握し、進路指導に役立てられたか。	12月、4月末に進路希望調査を実施し、就職希望者には6月より個別面談を行い、生徒の希望や適性を把握して職業選択に反映させた。各進路先に応じたガイダンスをこまめに開催し、生徒の適性発現に繋げた。また今年度より2年生の2学期より進路ガイダンスをスタートすることができた。	A	生徒の進路に対する意識を高めるためのキャリア教育を充実させ2年生より将来のビジョンに向かって進路研究や選択ができるように、引き続き指導していく。
		キャリア教育を実践し、進路選択の可能性を広げることができたか。	夏季および春季インターンシップ（夏季95名参加）、各種企業説明会、進路相談会やオープンキャンパス、進学説明会への参加を積極的に呼びかけた。特に校内企業説明会では2年生全員を参加対象とし実施、進学希望生徒からも大変好評で職業観の醸成に大いに繋がった。	A	インターンシップについては、今年度も1、2年生を対象とし2回（7月、3月）実施することができ、体験の機会を増やすことができた。校内企業説明会では来年度も2年生全員を対象として実施する。また働いている先輩の話や企業・体験談を聞く会も積極的に実施していく。
		保護者との連携を密にして指導を行うことができたか。	PTA総会及び各学年PTAにおいて、保護者への進路説明会を実施し、昨年度の進路動向を説明するとともに、進路活動への理解と協力を求めた。また懇談会資料も充実させ、様々な進路情報を届けることができた。	A	総会や学年PTAでは十分な時間を取り、進路に関するガイダンスを実施できた。来年度も進路係と担任との連携を深め、タイムリーに保護者へ情報を提供していく。
		進路実現のために基礎学力の向上を関連部署と連携して推進できたか。	地元大学と連携し、学校説明会（受験対策）を開催。また、必要な模試などの情報提供と受験案内を行った。医療看護系希望者に対しては過去問題を利用した受験対策を行い看護系では11名（四大4、専門7）が合格した。また公立大学では関係部署で出題教科の補習や作文、プレゼンテーション指導を粘り強く実施した。	A	進学では本校の実践を強みとした総合型や学校推薦型選抜対策に力点を置き、各教科と連携し基礎学力の向上と作文対策に努め、一般受験、大学入学共通テスト利用については、早期に計画的な学習指導をおこない、受験に備えることが出来るよう、引き続き指導していく。
生徒指導	基本的な生活習慣	頭髪などの身だしなみから生活習慣を見直し、社会で通用する基本的な生活習慣とマナーの確立を図り、地域から信頼される千曲生を目指す。	各定期考査の折指導を継続してきた。頭髪の染色・ピアス等の装飾品に対する指導に従わない生徒が出てきている。粘り強い指導を継続しているが、各専門科・各クラスで大変苦慮した。	B	長期休業明けなどは学科と連携し、指導の徹底をはかることを継続していきたい。
		クラス・学年・学科の枠を超え、協力し合って指導することができたか。	学年・科の係がパイプ役となり、係会・学年会で情報共有し指導している。	A	学年所属係が中心となって、学年会での情報発信を積極的に進めている。
		良好な学習環境を守る意識を、生徒に考えさせることができたか。	生徒会と連携し千曲祭・あいさつ運動・通学安全指導を行った。校内巡視や週活動会を継続しながら学習環境を整える意識を高めていく。頭髪・喫煙等の自浄努力についての浸透はいまひとつ。	B	各係と連携を取りながら、被害を抑えていきたい。また啓発活動も引き続き行っていく。
安全安心な学校	校内情報の共有化により、職員一致による安全な学校作りをおこなう。また、交通事故防止に積極的に取り組む。	校内LANにより、自転車通学者・アルバイト許可者・自動車免許許可者が閲覧できるようにしている。各担任への注意喚起はその都度間接的に入力し共有している。また緊急性、必要性のある場合は係がSHR時に放送を行った。	A	校内LANの活用を今後も積極的に続け、情報共有を促進させる。必要に応じて放送も入れていく。	
生徒会活動	自主活動への支援	各行事では、生徒一人一人が役割を持ち、自主的に運営を行った。これまで実施・参加しなかった、クリスマス会を自ら申し出て行った。組織内の役割分担や連携も行事を経験することに良くなった。新役員はまだ経験が浅く、仕事の判断や段取りが遅い。また、組織内でのつながりが弱い。	各行事では、生徒一人一人が役割を持ち、自主的に運営を行った。これまで実施・参加しなかった、クリスマス会を自ら申し出て行った。組織内の役割分担や連携も行事を経験することに良くなった。新役員はまだ経験が浅く、仕事の判断や段取りが遅い。また、組織内でのつながりが弱い。	A	今後も生徒達が主体的に行動できるようにサポートをしていく。担当教員が指示を出し過ぎないようにすることが大切。新役員は、順調に成長できており、その取り組みを継続させていく。
		生徒会活動の中に地域連携をひとつの柱として捉え、生徒の自主性を育む。	今年度スボGOMI甲子園に参加したことにより、長野市権堂や東京都墨田区でゴミ拾いを行った。その最中に地域のの人たちと会話することが結構多くあり、良い経験になった。まだまだ千曲高校生徒会を外部に発信できていないし、地域との連携も不十分だと感じている。	B	校外での企画に積極的に参加したい。ボランティアなど、地域と関わる企画を考えていく。
開かれた学校作り	公開授業等	春と秋の公開授業や行事をとおして、本校の活動を保護者に伝える。また、体験入学やWEBページにより、進路選択の参考となる情報を中学生およびその保護者に広く伝える。	体験入学では、多くの中学生と保護者が参加し、授業や実習の様子を体験することができた。公開授業においても、多くの中学生・保護者・地域の方々の来校され、授業の様子を参観した。しかし、懇談会期間中の保護者向けの授業参観では参加者が少なかった。	B	体験入学の際に、進路選択に必要な情報を更に充実させていく。懇談会期間中の公開授業について、連絡網を利用するなど、情報発信をしていく。
	広報活動の充実	本校の教育活動について広く理解を得るために、学校案内・WEBページの更新を増やす。積極的に地域のイベントに参加して、本校の特色理解してもらう機会とする。また、報道機関へ情報提供を行い、各種メディアを利用して報道情報の発信を図る。	生徒の活動や学習活動、行事などをメディアに取り上げていただき、情報発信することができた。また、授業や班活動等で各種のイベントに参加し、本校の活動を発信する機会となった。WEBページの内容充実や更新について引き続き努力していく。	B	授業や各種行事、クラブ活動などの生徒の取り組みの様子を、各担当と連携を密にして情報発信をしていく。
	PTA活動	PTA活動の業務の精選、適正化を図り、役員、保護者、職員が連携しながらPTA事業が円滑に運営できる体制を作る。	PTA活動の業務の精選、適正化を図り、役員、保護者、職員が連携しながらPTA事業が円滑に運営できる体制を作る。	A	PTA活動の業務の精選、適正化を図り、円滑に運営できる体制を検討していく。